



語り部通信

令和6年度秋号（通算第40号）

福井市歴史ボランティア「語り部」

父の春嶽を知りたいと渋沢栄一を訪ねた宮内大臣

7月3日、新一万円札が発行されました。発行が決まった5年前の福井新聞では「春嶽公記念文庫名品図録」の序文を著した文学博士平泉澄氏の内容が掲載されました。

春嶽公が亡くなった時、実子の松平慶民氏はまだ9歳。のちに宮内大臣になった慶民氏は父のことを知りたいと平泉氏の紹介で飛鳥山邸を訪ねたとき、晩年にある渋沢翁は「春嶽公は実に温なお方で、我々のやうな下々の者にも優しく声をかけられ、まことに春風に座する思ひでありました」と語り、主客いずれも、まことに上機嫌で楽しい懐古談に花が咲きましたと記された内容です。

また序文では、幕末の動乱期にあって越前藩では残酷非道な処刑は行われていない。これは春嶽公の聡明と有徳にあったとも記されています。

7月の会員基礎講座「春嶽を支えた男たち」で日本での民主主義の第一歩は福井からと力説された講義内容も感動的でした。これからも福井の素晴らしさを学んでいきましょう。

■福井の子どもたちの歴史学習に貢献しています！

今年は小学校・中学校の他にも、高校生にもガイドさせていただきました。



中学生の学習にお手伝い！柴田神社・資料館や養浩館庭園など中学生が学びたいところを重視。そして今年も小学生向けに夏休みに子ども歴史講座「夏休み自由研究お助け隊!福井城を防御せよ」が開催されました。

7月4日、福井南高校の生徒さん5名と先生を福井城址にご案内しました。事前に市立郷土歴史博物館で福井城の成り立ちなどの説明を受けてきたとこのことで現地でも城址の大きさを目と足で確かめることが目的のようでした。本丸の石垣と内堀だけが残る城址ですが、150年余り前の城郭は今では想像もつかないほど巨大な規模であったこと、城下町時代の玄関口は北陸道が通る九十九橋から、今は福井駅付近へと時代とともに街の中心が移っていったことなどを説明させていただきました。



高校生にガイドしている様子



柴田神社資料館、養浩館庭園でのガイドの様子



■令和6年度福井県ボランティアガイド連絡協議会語り部発表会・交流会

9/6小浜市旭座を会場に開催されました。新幹線開業を念頭においての現状報告や状況、課題など発表。まちあるきもあり、団体同士の交流ができました。

小浜、放生祭の神社 八幡神社の前で



■愛宕坂・橋南・浜町周辺のまち歩き研修

既存「語り部」と新人「語り部」の二班にわかれてまち歩きの研修をしました。2時間に及ぶコース。あいにくの雨の研修となってしまいましたが、真剣に取り組む新人参加者の様子に頼もしい限りでした。



■空襲を語る！

7/13福井駅前のハピテラスで語り部の田中文字夫氏が福井空襲について語りました。また7/17のNHKのニュースでも、順化小学校で平和への念いを語った授業の様子が放映されました。

その田中氏が7/20急逝されました。来年福井空襲から80周年。「来年は忙しくなる」とおっしゃってたのに残念でなりません。ご冥福をお祈りいたします。



ハピテラスで語る 故 田中文字夫氏

■雪の花～ともに在りて～

来年の1月24日公開の映画主演 松坂桃李 福井の町医者、笠原良策(白翁)が主人公です。福井市でのロケ地は、養浩館庭園とおさごえ民家園。原作は、吉村昭氏の小説です。映画鑑賞の前に読んでみるのはいかがでしょうか



ブログ うららのまち「語り部」ふくい



活動の様子や福井の歴史を発信しています。



ホームページ 歴NAVIふくい



ガイドや歴史講座などを紹介し、申込みを受け付けています。



YouTube 福井の歴史を紹介



福井の史跡や歴史などを配信しています。



よもやま話

笏谷石の利用の歴史

松田 久美子

福井市の中心に市民の憩いの場となっている足羽山があります。この山とその周辺が笏谷石の故郷です。古くから越前国は勿論、加賀、能登、越中をはじめ遠くは松前、江差まで運ばれ、人々の生活の溶け込んできた石であります。

その利用の歴史は古墳時代（4～6世紀）までさかのぼります。有力首長の古墳に死骸を埋葬する際、棺の一つに石棺が用いられました。

笏谷石が再び利用されはじめるのは、鎌倉時代からです。13世紀には記念銘のある石造遺物が見えはじめ、14世紀になるとその数は急激に増加します。朝倉英林孝景が一乗谷に居城を構え、天正元年までの100年余り、一乗谷は戦国城下町として多くの家臣や職人たちとその家族、さらに僧侶などが集住して繁栄しました。

武家屋敷や町屋からは多数の笏谷石製の生活用具が出土しています。前代まで石棺類が大半であった笏谷石の用途が、この時期に一気に生活用品にまで拡大したことが伺えます。また一乗谷には現在でも約3000の石仏、石塔類が見られ、これらもほとんどが笏谷石製です。

笏谷石は石棺、板碑、多層塔・宝塔・多宝塔・宝篋印塔・五輪塔などの石塔、石廟、石鬼、狛犬、鳥居、橋、石垣、敷石および日用品など広範な分野で使用されてきました。

中世後期に基礎を築いた笏谷石石工集団は近世に入って、ますますその操業規模を拡大してきました。これを可能にした最も大きな要因は、天正年間以降の築城ラッシュでした。

それまでは石鬼と棟瓦程度でしたが、柴田勝家公が築いた北庄城や柴田勝豊が築いた丸岡城の天守には、当初から石瓦が葺かれた可能性が高いのです。また藩政時代に入り結城秀康公が行なったのちの福井城の築城に至っては、天守の石瓦や本丸の石垣のみならず、外郭内の堀の石垣など福井城下の建設に大量の笏谷石が使用されたのでした。

しかし、平成11年（1999年）9月延々と続いてきた採掘の火は消えました。

（参考）越前笏谷石 北前船による移出・各地の遺品 著者 三井紀生

【編集後記】

大河ドラマ「光る君へ」彰子と帝の関係ってどこまで真実なのかしら…と思いながら、歴史は想像することが楽しいと、つくづく思うこの頃です。

【発行】

福井市歴史ボランティア「語り部」
（公財）歴史のみえるまちづくり協会